

# 日本体育大学

## 令和8年度入学者選抜 【出題の意図・模範解答】

学部・選抜方式	保健医療学部 救急医療学科 総合型選抜 学部別選考方式Ⅱ期
科目	小論文

### 【出題の意図】

- ・学科特性として、テーマに対して救急救命士がどのように関わっていくべきかを問うものとした。(救急救命士の本質を理解しているか)
- ・内容は、教科書を読んで学習していることを前提とし、保健体育科の教科書に掲載されている内容とした。
- ・「これまでの保健体育の授業で学んだことを踏まえ」とし、授業に取り組む姿勢が反映されるようにした。

### 【模範解答】

運動やスポーツは、身体の健康を保つうえで重要であるが、同時にけがや事故のリスクも伴う。保健体育の授業でも、運動時の安全対策や応急手当の必要性について学んできた。特に、熱中症や心臓突然死など、命にかかわる事態は誰にでも起こり得る。こうしたリスクを減らし、安心して運動を続けるためには、救急救命士の関わりが不可欠である。

救急救命士は、万が一の際に迅速な処置を行うだけでなく、事故の予防にも関与すべき存在である。例えば、スポーツイベントや学校の部活動において、事前に気温や湿度、参加者の健康状態を確認し、無理のない運動計画を助言することができる。また、練習中に倒れた選手への適切な対応、AEDの設置場所の確認や、救急搬送までの流れを整備することも重要である。さらに、学校教育の中で、救急救命士が指導に加わることで、保健体育の内容がより現実的で実践的な学びになる。私自身も授業でAEDの使い方を学んだが、実際に現場で活動する専門家から教わると、その緊張感と責任の重さを実感できた。生徒や指導者、保護者が正しい知識を持ち、応急手当ができるようになれば、事故後の対応が迅速になり、命を守る可能性も高まる。

スポーツの現場では、選手の技術や体力と同じくらい、安全への配慮が求められている。救急救命士は、その「安全の裏方」として、事故の予防、緊急対応、教育といった多面的な役割を果たすべきである。スポーツが持つ価値を最大限に引き出すためにも、安全な環境づくりに専門家として積極的に関わることを求められる。